

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

あかね台光の子保育園

横浜市青葉区あかね台 2-18-1

運営主体：社会福祉法人 みわの会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17～24 ページ
利用者本人調査分析	25～27 ページ
事業者コメント	28 ページ

2010年3月31日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	あかね台光の子保育園（保育所）		
報告書提出日	2010年3月19日	評価に要した期間	5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2009年9月26日～11月25日</p>	<p>職員会議で趣旨を説明した後、09年9月、評価機関から第三者評価の説明を受け、再度趣旨や内容を確認した。</p> <p>各職員が個人で、自己評価票を記入した。</p> <p>職員が記入したものを、小項目ごとに の数、評価を集計した。</p> <p>の結果をもとに、園長、主任、副主任、事務長、法人本部次長が今後の方向性を検討し、内容をまとめてレジュメを作成した。</p> <p>の自己評価結果と のレジュメを基に、全職員に対し3回の研修を実施し、当園の保育について全職員で確認しあった。</p> <p>再度、各職員が個人で自己評価票を記入した。</p> <p>をもとに、園長、主任、副主任が全体をまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2009年11月2日～11月16日</p>	<p>全園児の保護者（80家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日 第1日:2009年12月10日 第2日:2009年12月16日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名（兼務の主任含む）、 看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名にそれぞれ個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日 第1日:2009年12月10日 第2日:2009年12月16日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【あかね台光の子保育園】

【施設の概要】

あかね台光の子保育園は、東急こどもの国線「恩田」駅から徒歩約15分の住宅地の中にあり、2004年（平成16年）4月、社会福祉法人みわの会により開設されました。みわの会は、理事長が英国で幼児教育を学んだことを踏まえ、自分の子どもを預けたいと思うような保育園を作りたいとの思いから設立され、当園が最初の施設です。現在当園のほか、東京都内で3つの保育園を運営しています。

園舎は、鉄筋コンクリート造り2階建てで、内装は天然の木材をふんだんに使った温もりのある造りとなっています。1階には広い食堂兼ホールがあり、吹き抜けの天窓から陽の光が取り入れられ、0～2歳児室・一時保育室は床暖房となっています。園庭には、シンボルとなっている樹齢約300年の大木を活用した小屋、斜面となった登り板、綱渡りのロープのついたデッキ、すべり台、鉄棒などの固定遊具があります。また、近くには、森や丘、田・畑、多くの公園があり、子どもたちの良い散歩コース・遊び場となっています。

定員は90名（0～5歳児・産休明け保育あり）で、開園時間は、平日7時～20時、土曜日7時～17時です。

保育理念として、「私たちは、“ホスピタリティー・マインド”にて子ども達が日々安心して過ごせるように家庭に居る時と同じような、安全、清潔な保育環境をつくります」「一人一人が好きなものでじっくり遊んだり、動（園外）と静（園内）の活動にメリハリをつけ、子ども達の豊かな感性と心と身体が成長する姿を見守り、いつでも子どもが主体となる保育を心がけます」「地域との交流を積極的に図ると共に、21世紀を支える次世代の人材を育成することを通じて社会に貢献いたします」の3つを定めています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、「自分の思い」を尊重され、自由にのびのびと過ごしています

日々の活動の中で、保育士は子ども一人ひとりのペースや思いを尊重しています。例えば、散歩に出かけるときの支度では、子どもたち一人ひとりが自分でやるのを見守り、決してせかせるようなことはなく、子どもが頼んできたときに手助けをしています。公園などでの遊びでも、子どもたちは好きなことに熱中し、友だちと追いかっこやままごと遊びをしたり、一人で虫や花を眺めたり、さまざまに楽しんでいます。保育士は危険のないように見守りながら、子どもたちが木にぶら下がるのを手伝ったり、時には子どもたちの遊びに加わったりしています。また室内の活動で、例えば楽器演奏をするとき、どの楽器を選ぶかは子どもたちの自由です。楽器の数が足りなくなったり、誰も手にしない楽器があったりした場合にも、子ども同士の話し合いによって解決するまで保育士は見守り、友だちとのかかわり方や思いやりの心が自然に身につくようにしています。

また、一斉活動を行なう場合でも、子ども一人ひとりの思いを尊重し、子どもの興味を引き出して自発的に参加できるように保育士は取り組んでいます。そのとき関心を持たない子どもは参加しなくてもよく、好きな絵本を読んだりおもちゃで遊んだりしていることもあります。

一方、基本的な生活習慣を身につけることに関しては、子どもの思いに任せるのではなく、例えば、外遊びから帰ったときは、手洗い・うがいをする、食後は歯磨きをすることなどをきちんと指導しています。また、幼児クラスは給食のとき、ご飯やおかずは、自分が食べられる分量を言って盛り付けてもらいますが、嫌いなものがあつた場合に、子どもの「食べたくない」という思いに対し、一口分でも良いから食べるように保育士は声かけし、食べられたときは大いに褒めています。

2、職員間での情報の共有化を図り、共通理解を深めています

全職員が、一人ひとりの子どもの配慮すべきことや状況などを、職員会議などを通じて把握し、情報を共有しています。また、毎日の終礼や、クラス担任が集まる毎週の週案ミーティングなどで、クラスごとの活動の相互理解を図っています。さらに、何か問題が生じた場合には、緊急ミーティングを開き、なぜそのようになったのか、今後どのようにすべきかなどを議論し、まとめを全職員に周知しています。

また、入園後の子どもの育ちの記録は、どんなことをいつできるようになったかなど、内容に漏れがなく誰が見ても分かりやすくなるように細かく記入し、子ども一人ひとりの状況を把握しています。進級時には、育ちの記録および申し送り書に基づき、新・旧担任がミーティングを行い、一人ひとりの子どもの様子を詳しく伝えています。

さらに、園内研修に力を入れています。従来から、保育理念などの共通理解、マニュアルの見直しと周知などの研修を定期的実施していますが、今年度、新たな取り組みとして園内研修委員会を発足させました。職員一人ひとりから日ごろ困っていること、感じていることなどのアンケートをとり、そのまとめをもとに、今後園内研修で取り上げるテーマを何にしたら良いかを全職員で議論しています。

より一層の工夫が期待される点

地域に向けた子育て支援の充実

地域の子育て支援として、一時保育を行っています。一時保育専用の部屋を使用し、専任の保育士を配置しています。利用申し込み時に、子どもの生育歴や家庭での様子などを詳しく聞いてくれることや、専任の保育士が担当してくれることなどから、保護者からは安心して子どもを預けることができると喜ばれています。年間平均で、6～7名/日、多い日には10名程度の子どもが利用しています。

園の平成21年度事業計画の中に、「地域の子育て支援センターとしての役割を担えるように努力する」と掲げていることでもあり、一時保育以外の子育て支援をどのように実施し、充実させていくかの検討が期待されます。

また、子育て支援を進めるにあたり、地域のニーズを十分に把握するため、地元の町内会・自治会などとの連携をより一層図ることが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ・ 保育の理念として、「一人一人が好きなものでじっくり遊んだり、動（園外）と静（園内）の活動にメリハリをつけ、子ども達の豊かな感性と身体が成長する姿を見守り、いつでも子どもが主体となる保育を心がけます」などを掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。
- ・ 法人の「子どもの人権擁護」に関する研修を受け、職員は、大きな声を出さないよう、いつも冷静で穏やかな気持ちで子どもたちと接するようにしています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・ 子どもが好きなことをして遊ぶことを重視し、そのための十分な時間を確保しています。一斉活動は社会性を養うため年齢に応じて取り入れていますが、子ども一人ひとりの思いを尊重し、子どもの興味を引き出して自発的に参加できるように、保育士は取り組んでいます。
- ・ 外部の講師による体操指導で身体を動かしたり、外国人とのふれあいの中で英語を使いながら遊んだり、専門家による歌や楽器の演奏を聞いたりして、子どもたちが、年齢や発達状況に合わせて、さまざまな表現方法に触れられるように配慮しています。
- ・ 幼児クラスは、食事のとき、ご飯やおかずは、自分が食べられる分量を言って、盛り付けてもらっています。乳児クラスでは、保育士が子どもの食べる量を把握し、量を加減しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・ 指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て発揮できるように配慮して作成しています。
- ・ 年間指導計画・月間指導計画は、クラス担任が見直し、園長・主任が確認しています。また毎週、クラス担任が集まって週案ミーティングを行い、クラス相互の活動を理解し合い、連携を取っています。
- ・ 進級時には、育ちの記録および申し送り書に基づき、新・旧担任がミーティングを行い、一人ひとりの子どもの様子を詳しく伝えています。特に配慮が必要な子どもの場合には、新・旧担任だけでなく、全職員で申し送り事項を確認しています。
- ・ 特に配慮を要する子どもや、障がいのある子どもを積極的に受け入れています。また障がいのある子どもの場合は、保護者の同意を得て、地域療育センターなどから情報や助言を得ています。また、親子が地域療育センターに行く際に、保育士が同行することもあり、園生活で参考になることを学んでいます。
- ・ 法人として苦情対応規程を定め、それに基づき、要望・苦情を受け付け対応する手順をフローチャート形式で表示し、園内に掲示し保護者に伝えています。
- ・ 健康管理・感染症への対応・衛生管理・安全管理などのマニュアルを作成しています。
- ・ 送迎時には、その日の子どもの様子をちょっとしたことでも具体的に保護者に伝えるようにしています。

4、地域との交流・連携

- ・ 子育て支援サービスとして、一時保育を実施しています。専用の保育室を使用し、専任の保育士を配置しています。
- ・ 平成 21 年度事業中に「地域の子育て支援センターとしての役割を担えるように努力する」と掲げており、一時保育以外の子育て支援をどのように実施し、充実させていくかの検討が期待されます。
- ・ 地元の町内会・自治会などとの、より一層の連携を図ることが望まれます。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・ 職員倫理綱領を定め、全職員に配布して、守るべき法・規範・倫理などを周知しています。
- ・ 保育理念・保育姿勢などについて、毎年度初めに読み合わせを行い、職員に周知しています。
- ・ 法人のホームページに、年度決算およびトピックスなどを掲載しています。

6、職員の資質向上の促進

- ・ 職員一人ひとりが、毎年度初めに個人目標を立て、当年度の園目標とともに、それぞれに対する具体的な取り組み方をステップ表および自己評価票に記入しています。年度中間および年度末に園長と面談し、達成度や取り組み状況を話し合っています。
- ・ 法人として、職務権限規定、業務分掌規定を作成し、できるだけ現場の職員の自主性に任せるようにしています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。





「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念として、「一人一人が好きなものでじっくり遊んだり、動（園外）と静（園内）の活動にメリハリをつけ、子ども達の豊かな感性と身体が成長する姿を見守り、いつでも子どもが主体となる保育を心がけます」などを掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・ 保育目標は、「きれいな心とつよい体 自立の心と社会性を兼ね備えた “光の子” を育成する」とし、次の6つを掲げています。 社会性を養う 自立の心を養う 個性を養う 国際性を養う 健康と体力を養う 思いやりの心を養う ・ クラス別年間保育目標を年度初めのクラス懇談会で保護者に説明しているほか、クラスだよりで毎月の“保育のねらい”を伝えています。 ・ 保育課程に基づき、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。 ・ 指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるように配慮して作成しています。一斉活動を行う場合でも、子ども一人ひとりの思いを尊重し、子どもの興味を引き出して自発的に参加できるように、保育士は取り組んでいます。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園説明会前に、園長が保護者と個別に面談しています。食物アレルギーや病歴のある子どもの場合には、栄養士や看護師も一緒に面談しています。 ・ 希望者には、入園前に親子で来園してもらう「体験保育」を実施していて、約半数の親子が参加しています。 ・ 短縮保育（ならし保育）は、子ども一人ひとりの状況や体調、保護者の希望などを考慮し柔軟に対応しています。また、短縮保育中にクラス担任と保護者との面談を行っています。 ・ 年間指導計画・月間指導計画は、クラス担任が見直しを行い、園長・主任が確認しています。また、毎週、クラス担任が集まって週案ミーティングを行い、クラス相互の活動を理解し合い、連携を取っています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・園の屋内・外とも清潔に保たれています。
- ・0～2歳児室や一時保育室は、床暖房となっています。各保育室とも空調設備や扇風機などを備え、温度や湿度については、温・湿度計により日々確認しています。冬の乾燥期には、加湿器により湿度を保つようにしています。
- ・食堂（ホール）には天窓があり、雲の流れで室内の明るさに変化が見られ、子どもたちが楽しめるようになっていきます。
- ・園庭に面して、建物の一隅に外用トイレを設置し、子どもたちが安心して外遊びすることができるように配慮しています。
- ・0、1歳児室の前にも別に園庭があり、保育室のテラスから直ぐに外へ出て遊べるようにしています。
- ・温水シャワーは、1・2階ともトイレ内にあるほか、屋上プールサイドにも備えています。
- ・0～2歳児クラスは、可動式のパーティションで仕切った部屋の一方に寝る場所を確保しています。3～5歳児クラスは、食事は食堂で取り、寝る場所は各クラスの部屋としています。午睡の際、1歳児以上のクラスでは、低い簡易ベッド（コット）を使用しています。コットを出し入れするだけなので、ほこりなどが立ちにくく、清潔・快適な寝る場所となっています。
- ・食堂や、1階・2階の絵本・遊びのコーナーなど、異年齢児交流の場があります。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力




- ・0～2歳児には、個別指導計画を作成し、毎月の育ちの記録と共に、次月への目標・配慮事項を記載しています。3～5歳児では、特に配慮を要する子どもなどについて、個別指導計画を作成しています。
- ・子どもの育ちの状況は、0～2歳児は毎月、3～5歳児は3ヶ月ごとに記録しています。どんなことが、いつできるようになったかななどを細かく記入できるように工夫しています。
- ・パーソナルデータ（児童票）、面談記録、子どもの育ちの記録などは、個人別にファイルし、施錠した書庫に保管しています。職員は、園長または主任の許可を受け、いつでも閲覧することができます。
- ・進級時には、育ちの記録および申し送り書に基づき、新・旧担任がミーティングを行い、一人ひとりの子どもの様子を詳しく伝えていきます。特に配慮が必要な子どもの場合には、新・旧担任だけでなく、全職員で申し送り事項を確認しています。


- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもや、障がいのある子どもを積極的に受け入れています。
- ・特に配慮を要する子どもの保育に関しては、職員が外部研修などで最新の情報を学び、職員会議で報告するほか、報告書を全員に回覧して、日々の保育に活かせるようにしています。また、経験豊かな保育士が、園内研修で講師となり、保育上での留意事項などを伝えていきます。
- ・障がいのある子どもの場合は、保護者の同意を得て、「地域療育センターあおば」などから情報や助言を得ています。また、親子が地域療育センターに行く際に、保育士が同行することもあり、園生活

	<p>で参考になることを学んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食物アレルギーのある子どもの場合は、かかりつけ医の診断書および指示書に基づいて、保護者と担任・栄養士・看護師・主任が面談し、家庭での食生活を参考にしながら、代替食・除去食を提供しています。また、一人ひとりの子どもの食事メニューを保護者に渡しています。 ・ 食物アレルギー対応に関するマニュアルを作成しています。例えば、アレルギー対応食は、専用トレイを用いること、配膳時には、必ずその場にいる職員同士で声を掛け合うことなどを記載しています。 ・ 文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。例えば、宗教上の理由などで食事に配慮が必要な場合には、保護者に食事メニューのチェックをしてもらい、可能な限り代替食などを提供するようにしています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要望・苦情の受け付け担当者は主任、解決責任者は園長と定め、園内に掲示し保護者に伝えています。 ・ 権利擁護機関など、他機関の苦情解決窓口があることを、明文化した形で保護者に伝えることが望まれます。 ・ 法人として苦情対応規程を定めています。それに基づき、要望や苦情を受け付け対応する手順を、フローチャート形式で表示し、園内に掲示し保護者に伝えています。 ・ 地元の子ども会連絡協議会会長など2名を第三者委員としています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育室内の低い棚に、絵本、お絵かきや工作の道具や材料、手作りの物を含めた楽器やおもちゃなどを置き、年齢に合わせ、子どもたちが自由に取り出せるようにしています。 ・ 日々の保育の中で、子どもたちの発想を大事にし、それをふくらませていく「つながりの保育」を大事にしています。たとえば、オタマジャクシを飼育したことから、子どもたちの想像を発展させて、運動会で「10匹のカエル」という種目につながりました。 ・ 子どもが好きなことをして遊ぶことを重視し、そのための十分な時間を確保しています。 ・ 一斉活動は、社会性を養うため年齢に応じて取り入れています。子どもの主体性を大切に、子どもの興味を引き出して自発的に参加できるように保育士は取り組んでいます。そのときに関心をもたない子どもは、好きな絵本を読んだり、おもちゃで遊んだりしていることもあります。 ・ 子どものやってみたいという気持ちが育つように、言葉かけ、援助をしています。例えば、積み木を積み上げることに興味を示したら、さらに造形表現につながるおもちゃを保育士が出してきて挑戦できるようにしています。 ・ 天気が良い日は散歩に積極的に出かけ、幼児は持参した散歩図鑑を見ながら、動物や植物を観察しています。 ・ 外部の講師による体操指導で身体を動かしたり、外国人とのふれあいの中で英語を使いながら遊んだり、専門家による歌や楽器の演奏を聞いたりして、子どもたちが、年齢や発達状況に合わせて、さまざまな表現方法に触れられるように配慮しています。 ・ 異年齢児同士で散歩したり、体操指導を共に受けたりしています。雨の日は、例えば「ひかりっこプレイデイ」と称して、保育室ごとに違う遊びを用意し、2歳児から5歳児まで自由に好きな遊びを選べるようにすることもあります。 ・ 年齢により距離や遊具を考慮して散歩コースを決めています。木登りや斜面すべりができるコースを選ぶなど、発達を促すよう意識しています。3歳児から、外部の講師による体操指導を行い、年齢に応じたプログラムになっています。

- 1 保育内容[生活]





- ・ 食事は、3歳児の後半から、ごはんやおかずを自分で取りに行き、食べられる分量を言って、よそってもらっています。乳児の場合は、保育士が子どもの食べる量を把握し、食事量を加減しています。嫌いなものを強制することはなく、一口でも口をついたら褒めるようにしています。
- ・ 離乳食は、保護者と話し合いながら段階を進めています。一人ひとりの名前と段階を書いたプレートに食事をのせ、食べる時も、一人ひとりのペースに合わせて保育士が援助しています。
- ・ 前の日に、翌日に使う食材を子どもたちに見せたり、野菜の皮むきなどを手伝ってもらったりして、子どもたちが食への関心を持つようにしています。ひな祭りや節句などの行事食では、おひなさまやかぶとの折り紙を添えるなどの工夫をしています。
- ・ 幼児クラスは、天窓のある広々とした食堂を使っています。テーブルを、子どもの人数に応じて組み合わせを変え、1~2名などの少人数で食べることをないようにしています。
- ・ 食材はなるべく国産、無添加のものを使っています。食器は園のマークのついた陶器を使っています。
- ・ 子どもが好まない食材は、盛り付けや調理方法を工夫しています。たとえば、アスパラガスがどうやって育つかの話を聞いた子どもたちに、いつもは切って出すアスパラガスを切らずにそのまま1本出したところ、残さず食べてくれたことがあります。
- ・ 毎日、食事のサンプルを玄関に置き、その横にレシピや献立作成のポイントを置いて、保護者が持ち帰ることができるようにしています。
- ・ 午睡のときは、乳幼児突然死症候群チェック表により、1歳未満児には5分に1度、1歳以上児には10分に1度、呼吸を確認しています。長時間のうつぶせ寝はさせないようにしています。1歳児からはコットという簡易ベッドを使っています。
- ・ トイレトレーニングは、保護者との連携を密にして進めています。子どもがおむつに排泄した場合には保育士がすぐに替え、事前に教えてくれたときにはたくさん褒めるようにしています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 視診のポイントを含む健康管理全般のマニュアルを整備し、看護師を中心に連携しながら、子どもたち一人ひとりの健康状態を把握しています。
- ・ 乳児は毎月、幼児は3ヶ月に1回、身体測定をしています。また年2回、嘱託医による内科・歯科健診があり、いずれも記録しています。
- ・ 2歳児後半から歯磨き指導を行い、保育士が仕上げ磨きをしています。5歳児は、年2回の歯科健診のときに、歯科医によるブラッシング指導を受けています。
- ・ 登園禁止基準や感染症などの疑いが生じた場合の対応マニュアルを作成し、入園時のしおりにも記載しています。保育中に発症した場合はすみやかに保護者に連絡し、すぐに迎えに来られない場合は、子どもは事務所で待っているなどの対応をしています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症が発生した場合は、発生した人数やクラス、対策などを各クラスにすぐに掲示し、保護者に伝えています。 ・新型インフルエンザの国内感染が発生してから、毎朝、職員や子どもたちの体温を測るようにし、感染者が出たクラスの子どもたちは1日3回測っています。職員はマスク、手指の消毒をし、保護者にも注意を呼びかけています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルは全体ミーティングで見直しを行い、年度当初、園内研修で確認しています。清掃マニュアルは各自1部ずつ保管し、乳児用トイレのドアの裏にも掲示しています。 ・職員全員で掃除を分担し、衛生管理に心がけています。感染症などが発生すると、おもちゃの消毒回数を、今まで以上に増やすなど気を付けています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、地震、火災、引き渡しなどさまざまなパターンを想定して子どもたちと共に訓練を行っており、その反省を踏まえて安全管理に関するマニュアルの見直しをしています。また年に1回、消防署の協力により、起震車やスモークトンネルの体験、消火訓練をしています。 ・緊急対策本部の設置や、その場合の役割分担を含め緊急連絡体制ができており、通報の訓練も実施しています。また年に1回、救命救急の訓練を行っています。 ・事故やけがの場合に備えて、保護者・救急機関・専門医・かかりつけ医への連絡方法などのマニュアルを整備しています。 ・小さなけがでも、保護者に状況を報告し、事故報告書を作成しています。事故報告書には結果だけでなく原因、反省も書かれています。重要と思われる場合は緊急ミーティングを開いて事例検証のグループディスカッションを行い、その記録は全職員に回覧し、周知しています。 ・玄関は電子錠で施錠してあり、職員と保護者はICカード、来客はインターホンで対応しています。駐車場はチェーンで閉じられています。 ・神奈川県警生活安全部からの講師による研修に基づき、不審者が侵入した場合の訓練を行っています。保育室内には緊急用ボタンがあり、合言葉も作っています。散歩時には、保育士は、防犯ブザー、笛、携帯電話を携帯しています。

- 3 人権の尊重



- ・ 法人の「子どもの人権擁護」に関する研修を受け、職員は大きな声を出さないよう、いつも冷静で穏やかな気持ちで子どもたちに接するようにしています。年齢・発達・性格に合わせた叱り方、伝え方、言葉遣いができるように心がけています。
- ・ 子どもが何を思い、何を考えているかを知る努力をし、子どもの気持ちに共感し、わかりやすい言葉で伝えるようにしています。
- ・ 子どもに罰を与えたり自尊心を傷つけたりするような保育をしないよう、クラス内や全体ミーティングで確認しています。
- ・ 2階のトイレにはドアがついており、おもらしをしたときにシャワーをする場合は、トイレの奥で、ほかの子どもにわからないように配慮しています。
- ・ 法人の「個人情報取扱基本規定」が事務室および職員休憩室にファイルして置いてあり、全職員が周知しています。個人情報に関する書類は所定の場所に保管し、必ず施錠しています。連絡帳・申し送り書・手紙などは、関係者以外の目に触れないように伏せています。
- ・ 虐待のチェックリストがあり、疑わしい場合には報告・相談・記録をして、必要に応じて、福祉保健センター、児童相談所と連携できる体制を全職員が周知しています。
- ・ 性別による区別をしないようにマニュアルに記載し、全職員で確認していますが、時として、男の子、女の子を区別する場面が見られるので、さらなる配慮が望まれます。



- 4 保護者との交流・連携






- ・ 入園時に配布する園のしおりやパンフレットに保育理念、保育姿勢、保育目標を明記しており、日々の保育でも保護者にそれらが理解されるよう努力しています。
- ・ 送迎時には、子どもの生活の様子をちょっとしたことでも具体的に保護者に伝えるようにしています。担当が直接送迎時に話せない場合は、申し送り書に書いて連絡漏れのないようにしています。乳児は個人別の連絡帳があり、幼児も希望者にはノートを使っています。幼児クラスは、「今日の様子」という掲示物で毎日子どもの様子を保護者に知らせ、写真を掲示することもあります。
- ・ 個別面談は、2月は全保護者と、4月と11月は希望する保護者と実施しています。必要に応じて緊急個別面談もしています。
- ・ 保護者懇談会として、4月に全体会・クラス会を実施しています。5歳児については就学に向けての懇談会を、別に12月に実施しています。
- ・ 保護者からの相談内容は、すべて所定の記録用紙に記録し、継続的なフォローができるようになっていきます。
- ・ 日々の保育や保護者参加のない行事を撮ったビデオ、DVDの貸し出しや写真販売をしています。
- ・ 保護者参観・参加行事として、夏祭り、スポーツデー（運動会）、親子遠足、5歳児の思い出会、誕生会があります。年度初めに年間スケジュールを知らせています。
- ・ 保護者組織は今のところありません。保護者の組織的な活動について、場所の提供や職員の参加といった要請があれば、会合の目的な

どを考慮した上で、協力の用意はあります。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の人々を園の行事に招待した際にアンケート調査を行い、保育園に対する要望を把握しています。・ 子育て支援として、一時保育を実施し、専用の部屋を用意し、さらに専任の保育士を配置して積極的に対応しています。・ ベビータッチケアの講習会を毎年開催し、園児の保護者を通して地域の方々に知らせてもらい、参加を呼びかけています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none">・ 育児の参考となるように、園のホームページに園だよりを掲示しています。・ 育児相談の要望が地域住民からあった場合は、快く受け入れています。電話相談は随時受け付けており、時には来園して相談されるケースもあります。・ 相談内容に応じて連携が必要となる関係機関は、区分けをしてリスト化しています。また、関係機関との連携は園長が行っています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツデー（運動会）、マリンバ演奏会、観劇会、移動動物園など園の行事のときに、園の周囲にポスターを貼ったり、園児の保護者を通じて地域の人々に情報を提供したりして、参加を呼びかけています。 ・ 近くの小学校と連携を取り合い、5歳児が小学生と交流する機会を設けています。 ・ スポーツデー、夏祭り、園庭の樹木の剪定などのときに、ポスターを貼り、近隣の家へ戸別訪問して音量などに配慮することを伝え、近隣との友好的な関係を築くようにしています。 ・ 近隣の田や畑、森などがある地域で、日常的に園外活動をしつつ、近隣の人々と子どもたちが接しています。地域の畑で芋掘り、稲刈り、田植えなどを園児に経験させるなど、積極的に地域と交流を深めています。 ・ 自治会・町内会、ボランティアグループなどと、協力して行事を行うなどの計画的な交流をするには至っていません。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園のホームページで、保育園の情報を積極的に提供しています。またホームページに掲示板を設けて、園外の方々からの質問に積極的に応えています。 ・ 入園希望者や一時保育希望者に、園のパンフレットを渡し、口頭で園の保育理念やサービス内容、料金等について詳しく説明しています。また、電話での問い合わせにも応じています。 ・ 利用希望者に対して、電話や口頭で見学できることを案内しています。また、ホームページでも園の見学を勧めています。 ・ 見学希望者には随時担当者が案内しています。土曜日でも見学者があれば案内するなど、柔軟に対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験学習の中学生やインターンシップの大学生を受け入れ、花壇の維持のため近隣の方がボランティアとして来園していますが、ボランティア受け入れのためのマニュアルは作成していません。 ・ 実習生の受け入れのためのマニュアルが整備されており、園の基本的な考え方・方針や子どもたちへの配慮事項などを実習生に説明しています。同時に、受け入れ時に職員や子どもたち・保護者に説明しています。 ・ 実習生の受け入れの担当者は主任と定められており、受け入れ時の記録が残されています。 ・ 実習プログラムが作成されており、効果的な実習が行われるようにしています。 ・ 実習生は、その日に入ったクラスの担任と反省会を毎日行い、実習終了時には、園長、主任、担任を含めた反省会を行っています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員一人ひとりが、毎年度初めに個人目標を立て、当年度の園目標とともに、それぞれに対する具体的な取り組み方をステップ表および自己評価票に記入しています。年度中間および年度末に園長と面談し、達成度や取り組み状況を話し合っています。 ・ 人材育成計画は、作成していません。 ・ 園内研修を定期的実施し、職員・非常勤職員とも参加しています。今年度、新たな試みとして研修委員会を発足させ、職員一人ひとりから、日ごろ困っていること、感じていることなどのアンケートをとり、まとめました。その中から園内研修のテーマをいくつか設定し実施しています。 ・ 毎年度初めに、法人が運営するほかの3保育園の職員も参加する法人研修があり、法人の理念の確認、理事長講話、外部講師による講演などが行われています。 ・ 園内研修には、非常勤職員も参加しています。また毎年、資質向上のため振り返りの機会として、非常勤職員は、自己チェックシートを記入しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議などあらゆる機会をとらえて、保育上の課題などを話し合っています。重大な問題が生じたときは、事故報告書に発生時間、そのときの各職員の動きなどを記載しています。それをもとに、緊急ミーティングを開き、全職員でグループディスカッションをし、その結果を園全体でまとめ、共通理解を深めるようにしています。 ・ 園内研修に外部講師を招き、絵本の読み聞かせのやり方、わらべ歌の教え方などの指導を受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人として、職務権限規定、業務分掌規定を作成し、できるだけ現場の職員の自主性に任せるようにしています。何か問題が生じた場合には、園長・主任が適切なフォローや指導・助言を行っています。 ・ 園長・主任は、いつでも職員がアイデアや改善点を提案できる雰囲気となるように心がけています。 ・ 外部研修参加の際は出勤扱いになること、有給休暇・育児休暇・介護休暇などが取りやすいことなどは、職員のモチベーション維持につながっています。 ・ 経験・能力や習熟度に応じた役割を、期待水準として明文化することが望まれます。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員倫理綱領を定め、全職員に配布して、守るべき法・規範・倫理などを周知しています。 ・ 法人のホームページに、年度決算およびトピックスなどを掲載しているほか、要望があれば保護者が決算内容について閲覧できるようにしています。また職員には、前年度決算、当年度事業計画および予算などの概要を職員会議で説明しています。 ・ 古新聞、廃材などを再利用したり、ミスコピー紙の裏面を利用したり、ゴミ減量化・リサイクルの取り組みを行っています。 ・ 環境への考え方や取り組みなどを明文化して、園の運営に反映するまでには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念・保育姿勢などについて、毎年度初めに読み合わせを行い、職員に周知しています。また、園長・主任は、各種の行事計画時に保育理念・保育姿勢を念頭に立案するように指導しています。 ・ 給食の内容や主食を持参するかどうか、料金などについて、事前に保護者にアンケートをとり、その結果を文書で伝えるなど、保護者や職員に重要な意思決定の目的・理由・経過などを十分説明しています。 ・ 副主任制度を設けています。副主任は主任の分掌業務の一部を分担し、園長・主任の指導のもと OJT 研修を行っているほか、副主任を市・区などの主任研修に参加させて資質向上を図っています。 ・ 主任は、個々の職員の能力や経験にあわせ、的確な助言や指導を行っています。また、職員会議などで若い職員ができるだけ発言できるように配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点課題は、法人本部や法人 4 園の園長会などで協議、共有しています。今年度は、保育理念の理解を法人全職員にさらに浸透させることを重点課題としています。 ・ 毎年度、園としての保育基本方針を立てています。また、保育の質を落とさずに、ムリ・ムダを省くことを重要な改善課題としています。 ・ 地域での子育て支援サービスを、さらに充実させるにはどうしたら良いかを検討しています。 ・ 中長期計画は作成していません。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2009年11月2日～11月16日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 67.5%（80枚配付、54枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...5人、1歳児クラス...10人、2歳児クラス...14人、
3歳児クラス...11人、4歳児クラス...11人、5歳児クラス...3人

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
文中の「満足度」は、「満足」、「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

「保育目標・方針」について、83%の人が「よく知っている」「まあ知っている」と答え、そう答えた人の全員が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】入園時の状況について

「入園時の面接などで、子どもの様子や生育歴などを聞く対応」「保育園での1日の過ごし方についての説明」については、ほぼ100%の満足度です。“説明も丁寧で、子どもの状況もよく聞いてもらった”などの声があります。「見学の受け入れ」「入園前の見学や説明など、園からの情報提供」「園の目標や方針についての説明」についても、90%以上の満足度です。「費用やきまりに関する説明」については、満足度が87%で、“書類の見方がわかりづらかった”“退園時間の管理方法についての説明がなかった”などの意見があります。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」については、95%の満足度です。「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」については、82%の満足度です。“おゆうぎや歌などの発表会も見学したい”“年間行事予定で、上旬や下旬などの表記ではなく日付が確定していると助かる”“平日に行事があるのは納得できない”などの意見があります。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の項目では、「クラスの活動や遊び」「戸外遊び」「園外活動」「遊びを通じた子どもの健康づくりへの取り組み」については、ほぼ100%の満足度です。“毎日のように散歩に出かけ、自然や地域の人に触れ、身体も丈夫になった”などの声があります。「遊びを通じた友だちや保育者との関わり」については、96%の満足度です。

「生活」の項目では、「給食の献立内容」「体調への気配り」については、ほぼ100%の満足度です。「給食を楽しんでいるか」「基本的な生活習慣の自立へ向けての取り組み」についても95%の満足度です。「ケガに関する保護者への説明やその後の対応」については、78%の満足度で、“丁寧に説明してくれる”という声がある一方、“ケガをした方の保護者には連絡はあるが、させた方にも連絡してほしい”“ケガの謝罪だけでなく、検証と対策、その開示が大切”という意見があります。「おむつはずしは、家庭と協力し、子どもの成長に合わせて柔軟にすすめているか」については、“（自分の子どもが）その時期ではない”などという理由で「その他」回答が多くなっています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか」について、95%以上の満足度です。“施設は新しくきれい”などの声があります。「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」については91%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については、87%の満足度です。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「園の様子や行事に関する情報提供」「子どもに関する重要な情報の連絡体制」については、満足度が95%以上です。“伝え忘れたことがあっても、あとから電話してくれる”などの声があります。「保護者からの相談事への対応」については、94%の満足度です。「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「送り迎えの際の子どもの様子に関する情報交換」「残業などで迎えが遅くなる時の対応」については、80%台の満足度です。“個人面談をもっと早い時期にしてほしい”“運動会などの行事が平日に延期になるのは困る”“幼児クラスでは、連絡帳がないので、担任がいない場合など連絡が不十分”などの意見があります。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」については、ほぼ100%の満足度です。“担任の先生はいつも真摯に対応して下さり、信頼がおける。他の先生も子どもの名前を覚え、様子を気にかけて下さっている”などの声があります。「話しやすい雰囲気、態度であるかどうか」「意見や要望への対応」については、90%以上の満足度です。“子どもだけでなく保護者への気配りもあり、疲れていても先生とお話するとホッとできる”などの意見があります。「アレルギーのある子どもや障がいのある子どもへの配慮」については、“(自分の子どもが)該当しないため詳しくはわからない”などの理由で、「その他」回答が多くなっています。

【問8】保育園を総合的に評価すると
満足度は96%です。

【問9】園への要望など

“非常に満足している。今後も外遊びや自然とのふれあいをたくさん作ってほしい”“親子ともこの園が大好き”という声が多くある一方、“普段子どもがどのように過ごしているか、触れる機会があるとよい”“全体的に満足しているが、子どもを預かってもらっているのに、十分要望を伝えられない面もある”などの意見・要望があります。

まとめ

◇ 満足度が100%なのは、「子どもが戸外遊びを十分にしているか」「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動」「子どもの体調への気配り」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」です。子どもが楽しんで遊んでいることから、園に対し保護者は満足しているようです。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

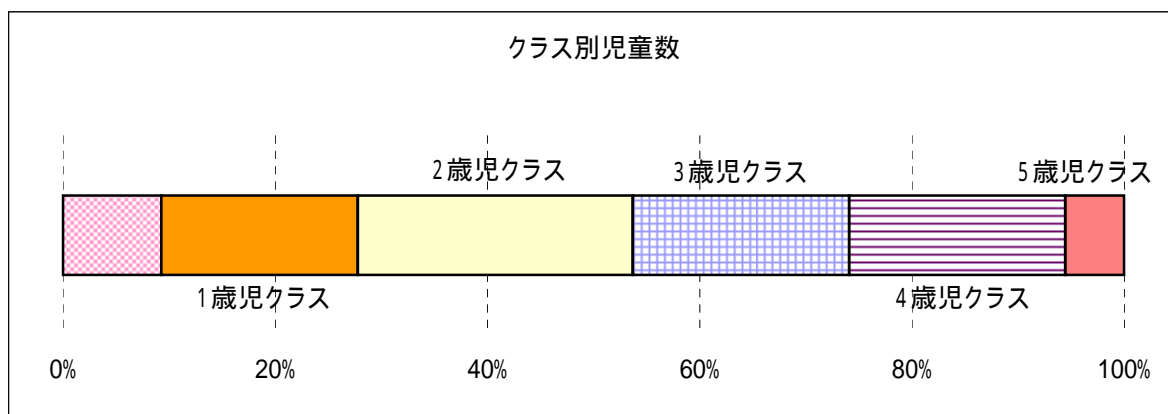
実施期間： 2009年11月2日～11月16日

回収率： 67.5% （回収54枚 / 配布80枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
54	5	10	14	11	11	3	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



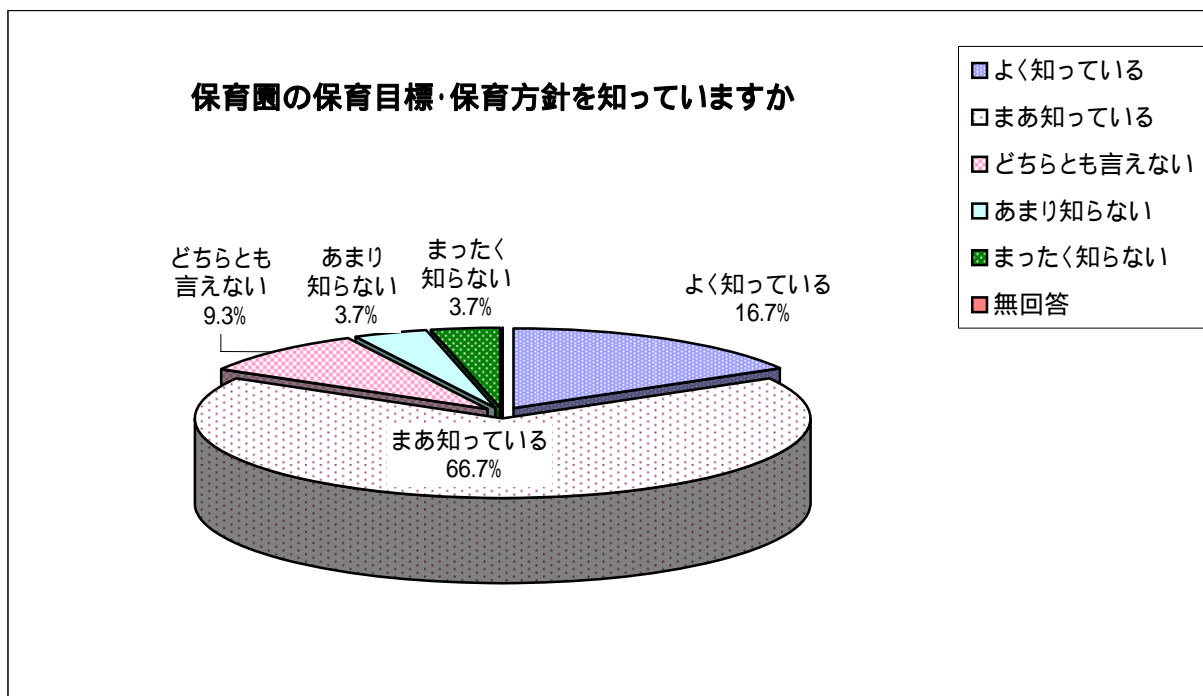
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	16.7	66.7	9.3	3.7	3.7	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

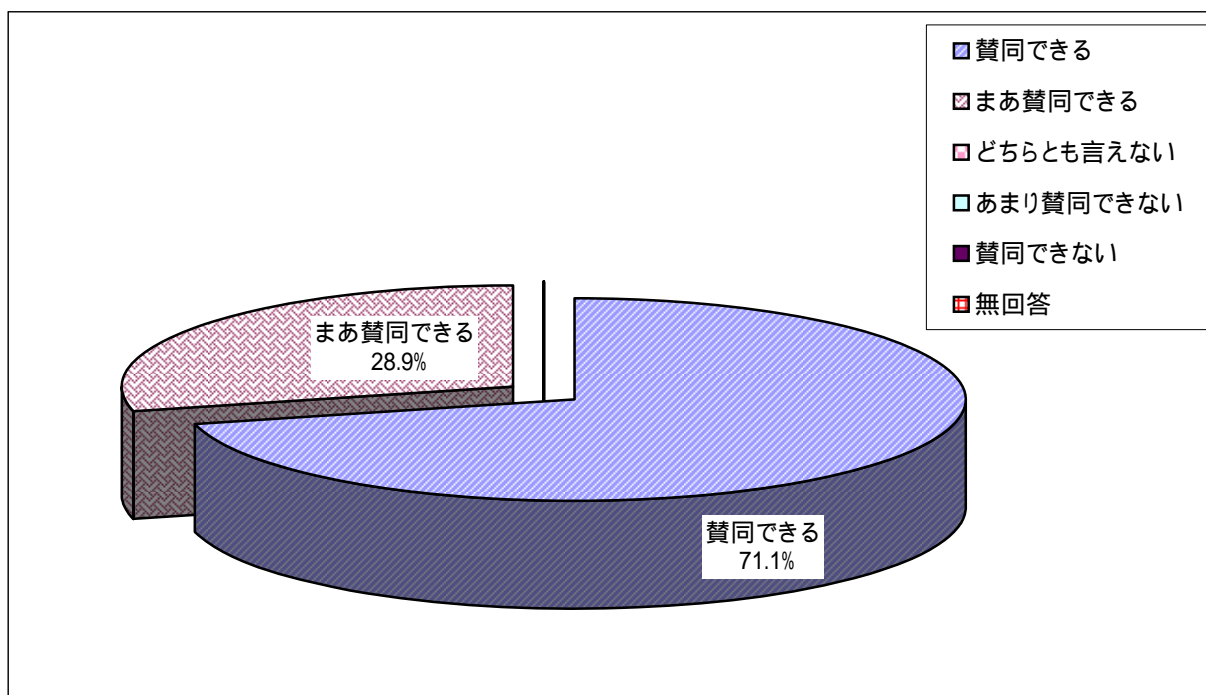


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	71.1	28.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

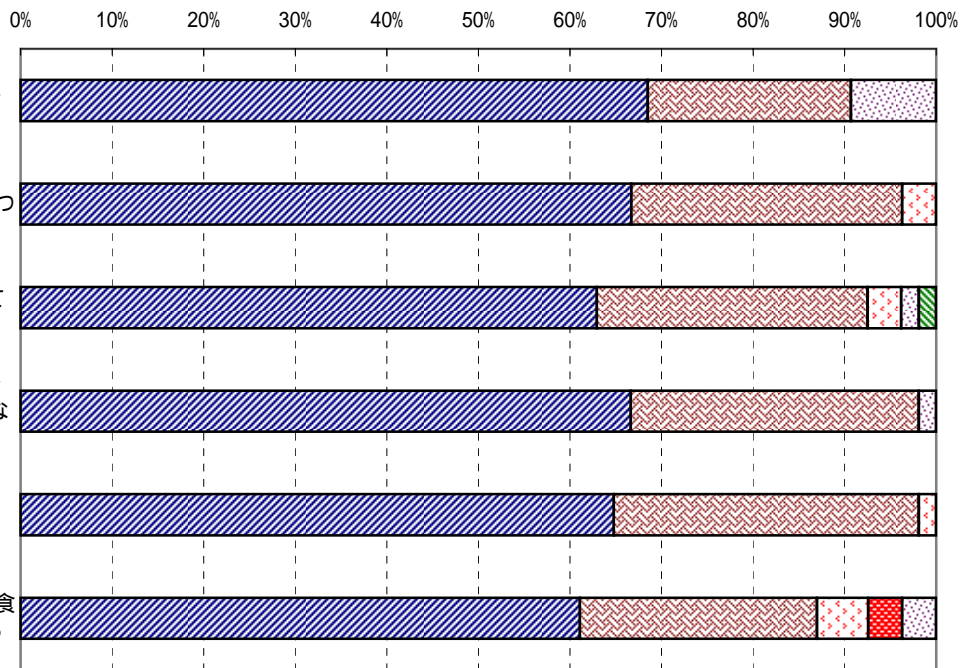
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	68.5	22.2	0.0	0.0	9.3	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	66.7	29.6	3.7	0.0	0.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	63.0	29.6	3.7	0.0	1.9	1.9	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	66.7	31.5	0.0	0.0	1.9	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	64.8	33.3	1.9	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	61.1	25.9	5.6	3.7	3.7	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



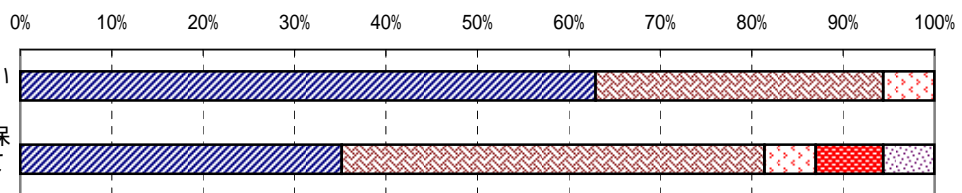
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	63.0	31.5	5.6	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	35.2	46.3	5.6	7.4	5.6	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



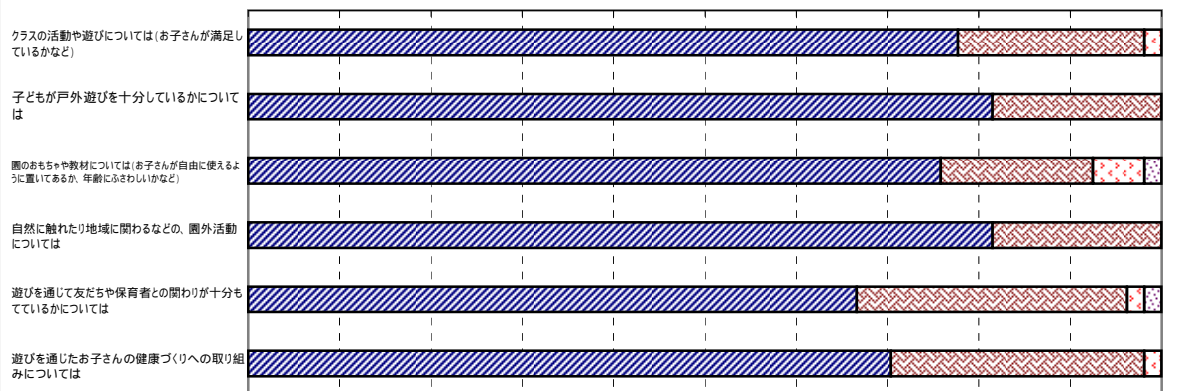
問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	77.8	20.4	1.9	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	81.5	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	75.9	16.7	5.6	0.0	1.9	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	81.5	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	66.7	29.6	1.9	0.0	1.9	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	70.4	27.8	1.9	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

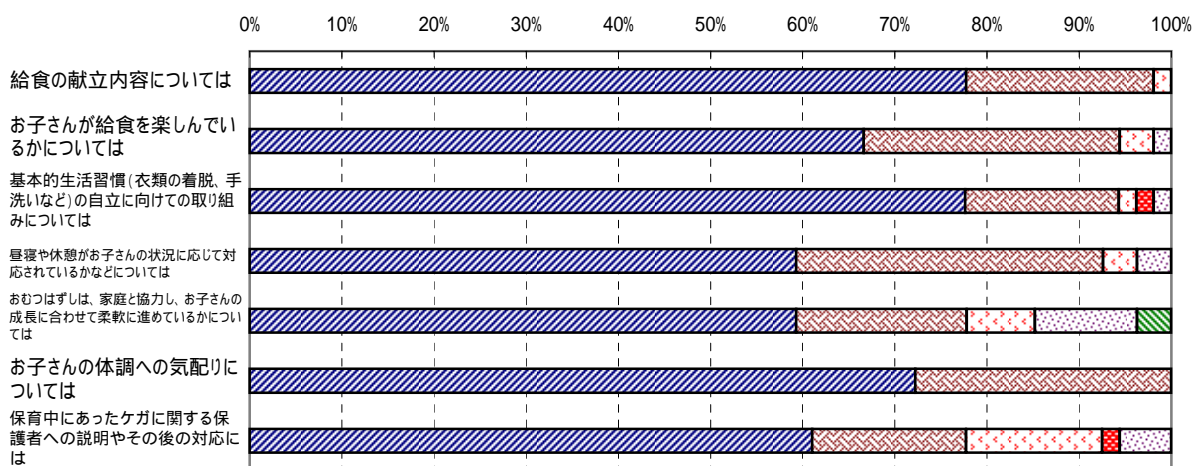


(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	77.8	20.4	1.9	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	66.7	27.8	3.7	0.0	1.9	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	77.8	16.7	1.9	1.9	1.9	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	59.3	33.3	3.7	0.0	3.7	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	59.3	18.5	7.4	0.0	11.1	3.7	100
お子さんの体調への気配りについては	72.2	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	61.1	16.7	14.8	1.9	5.6	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



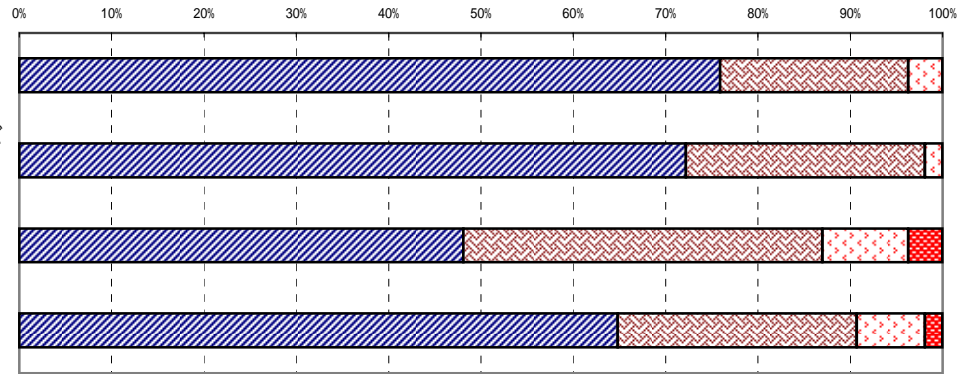
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	75.9	20.4	3.7	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	72.2	25.9	1.9	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	48.1	38.9	9.3	3.7	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	64.8	25.9	7.4	1.9	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



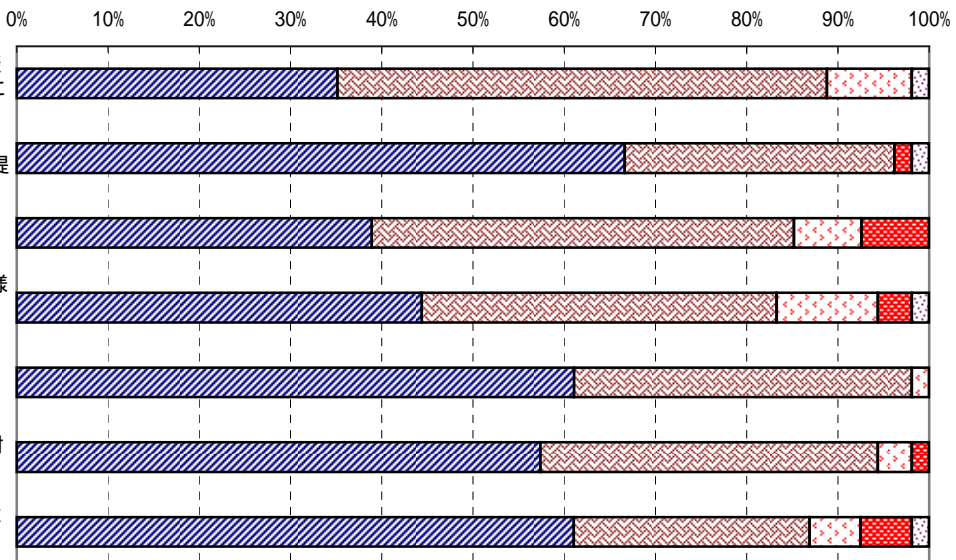
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	35.2	53.7	9.3	0.0	1.9	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	66.7	29.6	0.0	1.9	1.9	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	38.9	46.3	7.4	7.4	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	44.4	38.9	11.1	3.7	1.9	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	61.1	37.0	1.9	0.0	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	57.4	37.0	3.7	1.9	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	61.1	25.9	5.6	5.6	1.9	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

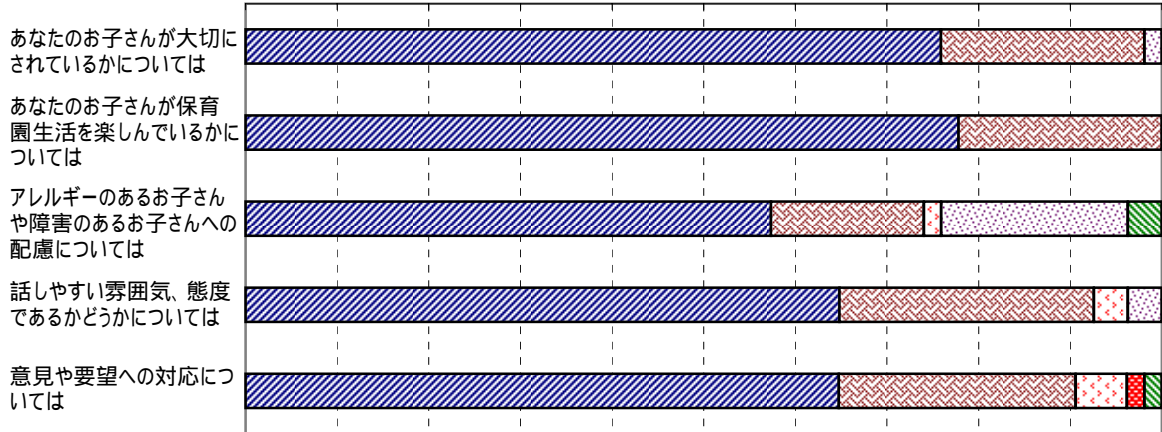
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	75.9	22.2	0.0	0.0	1.9	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	77.8	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	57.4	16.7	1.9	0.0	20.4	3.7	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	64.8	27.8	3.7	0.0	3.7	0.0	100
意見や要望への対応については	64.8	25.9	5.6	1.9	0.0	1.9	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

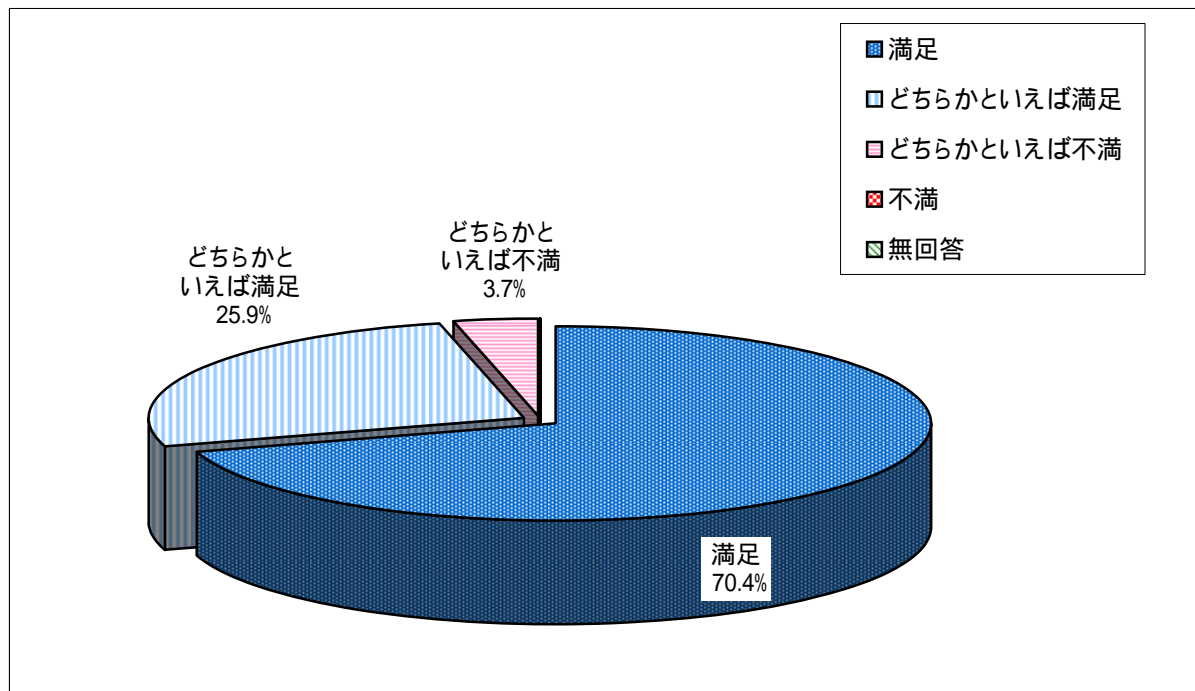
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	70.4	25.9	3.7	0.0	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

【あかね台光の子保育園】

観察調査 11月10日（水）9：00～12：30 11月16日（木）8：15～12：30

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（ピーン組）

保育室は床暖房になっているので、子どもたちははだしです。窓のそばにはベビーベッドが3台置いてあります。壁際の低い棚には絵本やおもちゃが入っていて、写真が貼ってあり、子どもたちが自分で出し入れできるようになっています。おもちゃは職員手作りのものもいくつかあります。子どもは、ほかの子どもが使っているおもちゃを欲しがったりしますが、保育士がほかのおもちゃに気をひくようにしていました。「お片付けしようね」という声かけで、絵本を保育士に渡したり、おもちゃをかごに入れたりします。朝のあいさつで一人ずつ名前を呼ばれ、保育士に「おはようございます」と言われると、まねをして答えていました。

散歩に出かけるとき、子どもたちのうち2人は保育士と手をつなぎ、あとはベビーカー2台に分乗します。座って乗るベビーカーの手すりは、噛んでもいいようにカバーを毎日取り替えます。途中の家の庭に犬がいたり、飾りや階段などがあつたりすると立ち止まって興味深く眺めています。公園に着くと、保育士がゴミを拾った後、子どもたちは順番に並んで遊具で遊びました。保育士がそばについて、見守っています。

帰ってくると、おむつを替えてもらいます。その後、自分で手を洗います。手洗い場は、普段は覆いがしてあり、子どもが勝手に使えないようにしてあります。食事は、2人が後期食である以外は完了食で、保育士に援助してもらいながら、スプーンや手を使い、頑張っで自分で食べていました。

1歳児クラス（キャロット組）

朝のおやつの中には、「お手手ぱっちん」して「おいしいおやつをいただきます」とみんなで声をそろえます。テーブルには、子どもが座る場所に名前と動物の絵が貼ってあります。食べ終わると、廊下の各自の袋に、エプロンを自分で入れに行きます。オムツ交換をしてもらった子どもは、自分でズボンをはいています。

保育士がカーペットを敷くと、子どもたちはワー！とうれしそうに座り、手遊びが始まります。朝のあいさつをした後、「体操」に移ります。音楽に合わせて、子どもたちはとてもうれしそうに体を動かします。

この日体調がすぐれない子どもがいるため、散歩に行くグループと園に残るグループとに分けることになりました。2つのグループに分けようとして、保育士が1人の名前を呼ぶと、つられてみんな付いていきます。保育士が汽車ポッポごっこをして、後ろに子どもを並ばせ、正しく分けていました。

園に残った子ども6人と保育士2人は、木のレールや牛乳パックを活用したものを並べて遊んでいます。「電車に乗って、牛乳を買ってこようか」と、保育士が遊びを発展させています。物の取り合いで泣く子どももいましたが、保育士はすぐに子どもの気持ちを感じ取って、なだめていました。

散歩に行った子どもたちが帰ってきました。靴、靴下、ズボンを脱いで、たらいにはったお湯で順に足を洗ってもらいます。

調理室に給食を保育士が取りに行くとき、子ども3人も手伝いでついて行き、軽いものを部屋へ運びます。テーブルを拭く手伝いをする子どももいます。除去食は、お盆の色が目立つ色で区分されていました。保育士が子どもの様子を見てお替わりをしますが、自分からお替わりの意思表示ができる子どももいます。全部食べ終わってお皿を「ピカピカ」にできた子どもは、うれしそうに保育士に見せます。食べ終わらないのに遊びに行こうとする子どもには、「ごちそうさましてないよ」と保育士が声をかけていました。

2歳児クラス（パンプキン組）

2階もこのクラスの保育室だけは床暖房となっていて、子どもたちははだしです。

散歩に行くので、子どもたちは自分で靴下をはき、保育士に手伝ってもらってジャンパーを着ると、靴を履いてベランダで待ちます。園庭に降りると、2列に並び手をつなぎました。保育士が列の前・中・後に付

いて、道路を横断するときは「お手手、いいかな？」と声をかけられると、子どもたちは手を挙げて渡ります。「栗まだあるね」「太陽、右になっちゃった」「クレーン車すごいね」「車にはさわらないように」など、保育士は子どもたちに話しかけます。公園に着くと、保育士から「階段は下りないこと」「ブランコは順番に」「バイクの乗り物は一人で」などと注意があり、ほかの保育士が危険な物が落ちていないか安全確認をした後、「どうぞ」の声で一斉に遊び始めます。ボール紙でできた円盤を投げたり、風船を手を持って走り回ったりしています。「おおかみさんごっこ」「ムックリくまさん」、砂場では「お店屋さんごっこ」の遊びなどを保育士と一緒にし、ブランコでは保育士が乗り降りを手伝い、押してあげていました。帰りは、子どもたちはロープに両側からつかまって、電車ごっこをして帰ります。「抱っこがいい」と泣く子どももいましたが、なだめられて園まで歩きました。

保育室に戻ってくると、靴下やズボンを脱ぎ、手足を洗い、トイレに行きたい子どもは行きます。エプロンをして席に着き、保育士の合図で食べ始めます。フォークを上手にを使って食べていました。

3 歳児クラス（スター組）

登園すると自分のシール帳にシールを貼ります。保育士が「今日は 16 日です」と言っても子どもたちの多くは 16 の位置が分からなく、保育士が「1 と 6 のところ、探してごらん」とカレンダーの 16 の位置を示します。

この日は体操指導があるので、カバンから体操着を出して着替え、脱いだ服は丁寧にたたんでカバンに入れ、棚にしまします。支度が遅れがちな子どもは、保育士が手伝っていました。用意が終わった子どもには、保育士が「十二支の始まり」という絵本を読み聞かせ、「12 月の次は何月？」と質問していました。

ベランダから園庭に下りて、2 列縦隊になり裏の公園に行きます。体操の先生とあいさつをかわし、「今年最後なので、今日はゲームです」と言われると、歓声が上がります。オオカミ遊び、だるまさんが転んだ、しっぽ取りゲーム、こおり鬼など、みんなで走り回っていました。ルールが分からない子どももいましたが、友だちの動きに合わせていました。

園に戻ると足を洗い、着替えた後に手洗いとうがいをします。その後 1 階ホールで、クリスマスイベント用の「散歩の歌」と合奏の練習をしました。カスタネットチームと鈴チームに分かれ、カセットやピアノの伴奏で練習をします。その後、2 階ホールに上がり、一人ずつ大太鼓をたたきました。

食事は 1 階の食堂でとります。保育士が一人ずつ確認しながらお茶とご飯を盛りつけます。おかずは各自取りに行き、量を申告します。お皿のものを全部食べたら、お替わりができます。「給食は好きだけど、嫌いなものもある」と、時には残す場合もあるようです。食べることを急がせたり、強要したりすることはありませんでした。食器を下げて歯磨きをし、保育士に仕上げ磨きをしてもらった後、絵本コーナーで絵本を見て待ちます。

4 歳児クラス（スカイ組）

朝の集まりで、「今日はレインボーさん（5 歳児クラス）と一緒に散歩に行くので、トイレに行って支度して」と言われると、「ヤッター」と歓声が上がります。「散歩図鑑を持って行って、何がいるか、何があるかを見よう」と保育士が、虫・植物などの写真と名前が載ったひもつきの図鑑を取り出してきました。

園庭に出て、5 歳児を待つ間、「マラソン大会」ということで何周か走ったり、花いちもんめをしたりしていました。4、5 歳児で手をつないで 2 列となり出発です。途中では、保育士と歌を歌い、工事現場の人たちとあいさつを交わします。草の実や畑の野菜を見て、持ってきた散歩図鑑と照合したり、鶏を見たり、山羊に触れたりしています。保育士が「オオカミの爪あとじゃない？」「熊の家、発見！」と言えば、子どもたちも棕櫚（シュロ）の葉を「天狗のうちわ」、大きな石を「化石」、電波中継塔を「ロケット発射台」と発想がふくらんでいきます。

分かれ道で「どっちに行く？」と保育士が問いかけると、指さす方向と左右の言葉が違う子どもがいて、「お箸と茶碗はどっちで持つの？」と左右を教えられます。広場に着くと、「先生が見えるところで遊ぶこと」と注意を受けた後、子どもたちは自由に遊び出します。保育士に抱き上げてもらって木の枝にぶらさがったり、枯れ葉を散らしたり、枯れ枝で「おそうじ屋さん」をしたり、保育士に絵本を読んでもらったり、思い思いに遊びます。「ピー！」という笛の合図で入口に集まり、人数確認をします。

保育室に戻り、着替え、うがい、手洗いを済ませると、お当番は先に 1 階の食堂に行き、テーブルを拭き

始めます。お茶当番もいて、それぞれのコップにお茶を注ぎます。ご飯、汁もの、おかずは、一人ひとり量を申告してよそってもらったものを運んでいます。テーブルごとに「いただきます」をして食べ始めます。食べ終わった子どもから食器を調理室前のかごに持っていき、その後歯磨きをし、保育士から仕上げ磨きもしてもらいます。

5歳児クラス（レインボー組）

登園すると、連絡帳にシールを貼り、自分の名前のマグネットを、ボードの中の「おうち」の場所から「園」の場所に動かします。このボードは、一目で園児の出欠が分かり、非常時にも持ち出せるものです。

保育室では、積み木を積み上げるのに夢中になっている子どもがいて、背が届かなくなると椅子に乗って積み上げています。押し入れ下のスペースに入り込んで動物園を作っている子ども、お絵かき帳に絵を描いている子どももいます。

「9時45分、長い針が9のところになったらおかたづけしようね」と保育士が言い、一人ずつに体温計を渡します。普段は自宅での検温だけでしたが、特に5歳児に新型インフルエンザの患者が出たため、1日3回園で検温しています。また、手作り誕生カード用に子どもの写真を撮っていました。朝の会が始まると、保育士は一人ずつ名前を呼び「気分はどうか？ おなかや頭は痛くないですか？」と聞きます。

体操指導があるので体操服に着替えますが、寒いかどうかは自分で確認するように言われ、半そでや、長そでの上に半そでの体操服、半ズボンや長ズボンなどそれぞれです。裏の公園で体操指導が始まります。いつもは年齢別ですが、5歳児に休みが多く、今回は4、5歳児共同になりました。ゼッケンをつけて、ハイパーこおり鬼、しっぽ取りゲーム、ばくだんゲームなどを、楽しみました。

室内に戻って着替えを終えると、保育士の周りに座って本を読んでもらいます。パン屋さんの手遊び歌を歌ったり、サンタさんに何をお願いしたか一人ずつ聞いたりもしました。

食事の時間になり、各自コップにお箸箱と歯ブラシを入れたものを持って、並んで階段を下り1階の食堂に行きます。食事を並んで運んできた後、おしゃべりをしながら食べていました。お替わりを何度もしている子どももいました。

一時保育クラス（オーロラ組）

今日の登園児は、9時～16時が4人、10時～16時が1人と、部屋のボードに名前とともに書いてあります。最初は子ども4人で保育士が2人ついていきます。広い保育室でブロックやパズル、人形で遊びます。その後おやつを食べました。

一時保育の子どもは園外への散歩には行かないことになっていて、園庭で遊びます。あとから登園してきた1人もまもなく園庭に出て来て、ほかの子どもたちに合流しました。最初は砂場で遊んでいましたが、その後遊具に移動します。縄をのぼったり、すべり台をやったり、丸太にまたがって保育士と一緒に電車ごっこや、砂を器に入れて食事ごっこ、わっかころがしをしたり、外をながめたりしました。

外の道路を通りサイクル（雑誌回収）の人に、「こんにちは！」と元気に声をかける子どももいます。園の裏手から何やら音が聞こえてくると、子どもはそれがゴミ収集車と分かっていて大喜びです。

遊具に登るときに顔をぶつけて泣いた子どもがいて、保育士にあやしてもらいます。ボールの取り合いがありました。保育士がもう1個ボールを持ってくると、泣かしてしまった子どももニコニコした表情に変わりました。

保育室に入り、食事となります。「いただきます」と言って、みんなスプーンを使って食べます。

少人数での保育なので、こじんまりとして、落ち着いていました。

まとめ

全体に人懐こい子どもたちが多く、いろいろなことへの興味も多く持っています。外遊びも元気いっぱいです。一方、食事のときなどは、落ち着いて楽しんでます。

5歳児のお当番は、各クラスを回って出席人数を事務室に報告しています。また、3～5歳児は1階の食堂で一緒に食事をしたり、ほかのクラスと一緒に散歩に出かけたり、体操指導を共に受れたり、異年齢児間の交流も盛んです。

事業者コメント

新設園ということで、結集してくれた職員には、法人の理念方針を理解し、一つの目標に向かい協力し合って、園をつくりあげるということに、共通理解と意識を求めてきました。目指す保育の土台を作るために、マニュアルを作成し、それに基づいて実践し、一段一段と基礎づくりに取り組み、今日にたどりついたところです。

これまでの保育の検証確認とこれからの保育のあり方について更に理解を深めるため、また、もっと共通理解を！という職員の意欲に後押しされる形で、園内研修委員会を立ち上げ、諸々の内容について検討を行いました。ここから第三者評価受審に向けての取り組みが始まったように思います。この時期に受審したことは、保育指針の改定もあり、改めて指針を学べたことも、大きな前進です。

しかし、評価項目の一つ一つの内容について自己評価を行うと、何度も何度も立ち止まり、振り返り現実に求められる質（内容）の奥深さに考えさせられることが、多々ありました。結果、明確な課題として浮き彫りになりました改善点も含み、今後職員みんなで話し合いを重ね、よりよい保育・求められる保育園のあり方等、質の高い保育の確立を目指していきたいと思います。また、保育者として専門性の向上に努めるなど研鑽を積んでまいります。

保護者の皆様には、多くの方々が、また、お忙しい中アンケートにご協力頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。アンケートを通して、伝わってくる保護者の方々の思いや、要望について有り難く又、真摯に受け止め、これからの私達の姿勢をもって応えて参りたいと思います。

評価調査員の皆様には、時間をかけて、きめ細かい対応をして頂き、不安なく、受審に望めたことを感謝致します。これからも、子ども達の健やかな育ちを願って又、大人も子どもも共に育ち合う温かな園作りに邁進したいと思います。

あかね台光の子保育園
施設長 細野 貴美子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見ることができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
